

さんが…」の後で間を置くと、眉をピクピクと動かし「ドテッ」と言った時に、フツと眉の動きが止まります。「だるまさんが…」の後に次が来ることを待っているようです。絵本を繰り返し読むことで、ことば、間、ことばの連続に気持ちが高まっているようでした。



Bさん(横地分類A1)は、近くに行つて、声をかけ手を握ると、口角が上がリ、口をモグモグするように動かし何かを感じているようです。活動では、手遊び歌の『いっばんばしこちよこちよ』を行っています。歌い始めると大きく開眼し、目を左右に動かしたり、一点を見つめ上肢を挙上し指先を動かす姿が見られ歌いかけに意識を向けて集中しています。「たたいつねって…」の辺りから、「こ

ちよこちよ」を期待しているように、口角が上がリ大きく開眼します。「かいだんのほって」の後に間を取ると、何かを探すように眼球を左右に動かし「こちよこちよ」でタッチングすると、口を開け楽しんでるようでした。

ほのかの

日常生活紹介

平野 成美

Aさん(横地分類A1)は、部屋のベッドから、廊下を通る人の動きをよく見て追っています。少し離れた所から名前を呼びかけると職員の様子を見てニコッと笑い、来てくれるのを待っているかのような期待の気持ちを感じます。

活動は、ゆっくり物が移動していく様子が楽しめる内容にしました。どんぐりの形をした木の人形が、ゆるい板のスロープを下っていく様子と最後にコテツと倒れる動きを見て楽しむ活動です。Aさんの前にどんぐりを出すと、それを見てニコッと微笑みました。どんぐりをスロープの上に置くとところからよく見えています。職員がどんぐりから手を離すとカタカタと小刻みに揺れながら坂道を下りていきます。

動き始めはよく見えています、途中からどんぐりを追いきれなくなってもカタカタと音がするだけで、どんぐりを探しているように視線を動かして音を聞いています。最後に、どんぐりがスロープから落ちてバランスが崩れ、カタタンと音をたてて倒れると楽しそうに笑っていました。カタカタカタという小刻みな音から最後のカタンというまでのリズムミカルな音も楽しいのだと思えました。



また、Aさんは、絵本のページをめくると視線を絵本の方向に移します。読み進めるうちに左手が動き始め、絵本の方に伸びてきます。絵本に対しての興味を感じ、絵本を使つての語りかけを行いました。

活動を始めた頃は繰り返し返される短いフレーズと、途中に出てくる擬音語が楽しめると

新入職員紹介

●あすか 鈴木 敏美

このたび9月からあすかでは聖隷三方原病院、開業医の小児科に勤めていました。

そこで、重症心身障害児と触れ合う機会があり、重症心身障害児の看護を勉強したくおおぞらにまいりました。今までの看護とは違うことも多く戸惑うこともありましたが、先輩看護師たちの利用者一人ひとりの生活を大切に関わっている姿に日々刺激を受けています。これから、精一杯頑張つてまいりますのでよろしくお願ひします。

考え『だるまさんが』の絵本を読みました。「だるまさんが」と言っている途中から笑顔になります。そのまま間を開けると真剣な顔になり、次の言葉を待っているように感じました。次の「ぶつ」や「ぶしゅー」などの言葉を聞くとニコツとし、絵本の中の擬音語を聞いて楽しんでいました。今は『しろくまちゃん』のほつとけーき』を読んでいます。読み始めはきよきよと目を動かしていますが、読み進んでいくうちに、次第に真剣な表情になり集中してきます。この絵本は、左が絵のときに右は文というように、絵のページと文のページに分かれています。ページをめくるたびに視線を動かして絵のページをしっかりと見ていました。ホットケーキの焼けていくところは、見開きでオレンジ色のページになります。語りのリズムも、それまでのやさしい話し言葉から「ぼたあん、どろどろ、ぶつぶつ」というようなテンポの良い擬音語のリズムに変わります。このページで笑顔になり絵本に手が伸びます。語りのリズムの変化と、ページをめくったときの絵の変化に対する気持ちの高まりを感じました。

